

新聞摘要

(2005年4月16日～6月15日)

4月27日(星期三)

26日、13名居住在埼玉县和东京都的中国残留妇人向埼玉地方裁判所提出了要求国家进行赔偿的索赔诉讼。

5月27日(星期五)

始终致力于中国残留妇人归国支援活动的原“春阳会”会长国友忠先生，因肺癌治疗无效，于22日去世。

5月29日(星期日)

信浓毎日新闻28日公布了“县民对于(中国)归国者的认识调查”结果。此次调查是以1500名20岁以上的长野县民为对象、于4月上旬到5月中旬、通过邮递形式进行的。其中602人作出了意见答复。对于“你怎么看从中国归来的归国者和你住在同一个地区”这一问题，有七成多接受问卷调查的人回答“应该热情地欢迎他们”，而回答“希望他们成为连接日本和中国的桥梁”的人，占了近六成。

5月30日(星期一)

29日，在中国东北地区迎来二战结束那一天的漫画家ちばてつや先生和森田拳次先生等人，在京都府的立命馆大学举行了“一个从中国撤退回来的少年的记忆”的演讲会。大约100人倾听了他们的亲身经历。

6月8日(星期三)

为了寻求新的开始，曾致力于推进与中国黑龙江省方正县交流活动的“方正地区支援交流会”，将于19日召开总会。1963年，方正县政府为那些在本地去世的日本人修建了“日本人公墓”。为了让世人了解公墓存在的事实，1993年诞生了“方正地区支援交流会”。此会还曾致力于支援方正县的农业发展和日语教育等事业，但是一段时期，其活动处于停顿状态。

ニュース記事から

(2005年4月16日～6月15日)

4月27日(水)

埼玉県と東京都に在住する中国残留妇人13人が26日、国家賠償訴訟をさいたま地裁に提訴した。

5月27日(金)

中国残留婦人の帰国支援などの活動に尽力した元「春陽会」会長の国友忠さんが22日、肺ガンのため亡くなった。

5月29日(日)

信濃毎日新聞は28日、「(中国)帰国者に対する県民意識調査」の結果をまとめた。この調査は、20歳以上の長野県民1500人を対象に郵送により実施し、602人から回答を得た。「中国からの帰国者が同じ地域に暮らしていることについて」との問いに対して、「地域に温かく迎え入れていくべき」という人は7割強に達し、「日本と中国をつなぐ架け橋になってもらいたい」という人も6割近くあった。

5月30日(月)

終戦を旧満州で迎えた経験を持つ漫画家ちばてつやさん、森田拳次さんらの講演会「中国からの引揚げ少年の記憶」が29日、京都府の立命館大学で行われ、約100人が体験談に聞き入った。

6月8日(水)

中国の黒竜江省方正県との交流を進めてきた「方正地区支援交流会」が19日、再出発のための総会を開く。同会は、方正県政府が現地で亡くなった日本人のために1963年に建設した「日本人公墓」の存在を広く知らせるため1993年に発足し、同県の農業発展や日本語教育の支援も行ってきたが、一時、会の活動は休止状態だった。